

The Women's Studies Association of Japan

発行 日本女性学会
事務局 〒020-0124
岩手県盛岡市厨川4丁目13番8号
E-mail jyoseigakkai-info@genj.jp
ウェブサイト
<https://joseigakkai-jp.org/>
頒価 一部300円

学会ニュース

日本女性学会
第162号 2025年3月

目次

2024年度日本女性学会大会報告……………	1	日本女性学会第45回年次総会……………	7
シンポジウム報告……………	1	幹事会議事要録……………	11
シンポジウム参加者から……………	2	少額研究活動支援……………	13
パネル報告・ワークショップ報告……………	3	会員の著書紹介……………	14
個人研究発表一覧……………	4	会員の著書紹介募集……………	14
お知らせ……………	5	会費納入のお願い……………	14
次回大会お知らせ……………	6		

2024年度日本女性学会大会報告

日程：6月8日（土）、9日（日）

大会シンポジウム

「女性学を継承する」

シンポジスト：上野千鶴子、佐藤文香

ディスカッサント：加藤秀一、古川直子

司会／コーディネーター：内藤和美、牟田和恵

シンポジウム報告

コーディネーター：牟田和恵、内藤和美

本シンポジウムは、女性学の継承の必然性と困難を共にひしひしと感じる中で発意された。多様な学問分野／テーマについてジェンダーに関する研究が行われるようになったいま、女性差別に抗し、女性としての経験からの理論化を試みる「女性学」は“狭い”のか？意義を失いつつあるのか？女性学が創出したと言える鍵概念「ジェンダー」の広がり／展開／深化は、女性差別や女性カテゴリーの問題を後景化させ、それらに対するうえで新たな困難を生んでいるかもしれない、だが逆に新たな可能性を生んでいるかもしれない—これらを問うて、シンポジウムでは、女性学のパイオニア世代の上野千鶴子会員とつづく世代の佐藤文香会員に発題いただき、加藤秀一さん（フェミニズム・ジェンダー・生命倫理学）・古川直子さん（ジェンダー／セクシュアリティ研究、精神分析理論）に討論いただいた。上野会員は「女性学を創る～世代間継承へ向けて～」と題し、日本の女性学の誕生と故井上輝子会員による定義の意味、制度化・アカデミズム化の過程、展開とくに「ジェンダー研究」への展開過程を辿った上、女性学の達成と課題を提起した。課題の指摘は、「女性」という集合的アイデンティティ自体、女性としての「経験」の重層性・多様性から、知の再生産システムに組み込まれることの功罪、ジェンダー概念の“標準化”等々多岐にわたった。佐藤会員は、「女性学とジェンダー研究の間—何が異なり、なぜすれ違うのか」と題し、女性学とジェンダー研究の関係の認識の違い等、

「女性学創設世代」と「ポストジェンダー研究制度化世代」のディスコミュニケーション、すなわち継承の困難の根本は、ジェンダー概念が、ジェンダー／セックス二元論の第2パラダイムから、二元論パラダイムからの解放（ジェンダー／セックスの区別の廃棄）を標榜する第3パラダイムへと移行したことにありと指摘した。そのうえで、世代間ギャップを架橋する、4通りの解放への道筋を提示した。「女性学の継承」の課題化のしかたが異なるお2人の発題を受け、加藤氏は、ジェンダー概念をどう使うかと、社会運動とフェミニズムについて見解を述べた。同じく古川氏は、①第2パラダイム：階層秩序（権力関係）としてのジェンダー概念と、第3パラダイム：性別二元論批判、2つの視点は両立するのか？、②ジェンダーへの自由とジェンダーからの自由は同時に実現するか？の2点を両発題者に問うた。これらへのリプライと対話、そして会場討論を通じて、女性学の継承を論じることの、生産的でありつつ困難を知るシンポジウムとなった。

シンポジウム参加者から

大会シンポジウムの感想① シンポジウムを聴いて

熊田一雄

2024年度日本女性学会大会の初日シンポジウム「女性学を継承する」を聴講した。充実したとても良いシンポジウムであった。

シンポジウムの冒頭で、牟田和恵氏から、女性学会の会員数がピークの2004年からほぼ半減していることに言及があった。昨年度の国際ジェンダー学会で江原由美子氏が、日本の大衆の間でのフェミニズムの「隆盛」は、日本がまだ物づくり大国で、一億総中流社会と呼ばれるほど階級格差が小さく、正社員の夫と専業主婦の妻のジェンダー格差ばかり目立った時代状況と関係がある、と述べ、フェミニズムの活路は、他の変数とのインターセクショナリティの開拓にしかない、と言っていたが、今回もそのことが確認されたように思う。

まず上野千鶴子氏と佐藤文香氏から、ポイントをきっちり押さえた総論が提出され、加藤秀一氏と古川直子氏が的確なコメントを行った。ディスカッションでは、冒頭で上野氏が他のパネリストの議論を「ジャーゴン、たこつぼ化、運動との乖離」と切って、刺激的な議論の火蓋を開いた。上野氏の言論活動を「攻撃、ヨイショ、誘惑的挑発」に分類するとすれば、典型的な「誘惑的挑発」であった。他のパネリストが戦略的に「ケンカを買った」ことによって、深みのある立体的な議論になった。

私が教えているような若いZ世代の学生に、例えば上野氏の『女ざらい』を勧めると、概して好意的に反応する。しかし彼らは、情報収集をスマホ経由でネット、特にSNSに頼る傾向があり、「ツイフェミ(Twitterのフェミニズム)」と「反フェミ」のわずか140字の議論に振り回されている。その点では上野氏の危惧は当たっている。

充実した時間であった。よいシンポジウムを開くことは、よい個人研究発表をすることよりも、はるかに難しい。シンポジウムを企画した方々、パネリストとして参加なさった方々に感謝したい。

大会シンポジウムの感想② 「女性学を継承する」ために

——女性学の半世紀の軌跡と未来への展望

永山理穂

シンポジウム「女性学を継承する」は、日本女性学会が設立された1979年から約半世紀を機に、女性学の固有性と現代的意義を再考することを目的として開催された。同シンポジウムでは、女性学創設世代の上野千鶴子氏と次世代の佐藤文香氏による報告が行われた。上野氏は女性学の歴史的展開と制度化の過程を振り返り、ジェンダー概念が権力概念であることを強調した。具体的には、女性学が民間学として始まり、やがて大学での制度化を果たしていった過程や、男性学の誕生、ジェンダー概念の精緻化を経て、より領域横断的な「ジェンダー研究」へと発展してきた経緯が語られた。佐藤氏は女性学創設世代とジェンダー研究の制度化以降にアカデミアに参入した後続世代の間の認識のギャップに焦点を当て、ジェンダー概念の捉え方の変遷やその概念の社会への影響力について論じた。ここでは特に、世代間の認識の差異の背景や、それぞれの世代が抱える課題について詳細な分析が提示された。

ディスカッションでは、加藤秀一氏と古川直子氏のコメントを交えて、ジェンダー概念の権力性、フェミニズムの役割、当事者性の問題など多岐にわたる議論が展開された。特に、「ジェンダーへの自由」と「ジェンダーからの自由」が両立する可能性や、生物学的性差の扱いが主な論点となった。加藤氏はジェンダー概念を拡張し

うる可能性について言及した。古川氏は階層秩序としてのジェンダーを問うことと、性別二元論を批判することを両立させうる可能性について問題提起を行った。

本シンポジウムを通じて、女性学・ジェンダー研究の歴史的意義と現代的課題が浮き彫りになった。世代間の対話や、理論と実践とを架橋することの重要性が再確認され、今後の研究と運動の方向が示唆された。特に、ジェンダー概念の捉え方や生物学的性差の扱い方をめぐる議論は、学術にとどまらず現実社会に大きな影響を与えることが確認された。

本シンポジウムは、女性学の継承世代にとって、自らの立ち位置を再確認し、今後の研究の方向性を深く考察する貴重な機会となった。創設世代から受け継いだ問題意識や方法論を、いかに現代社会の文脈に適用し、発展させていくかという課題の重要性を改めて認識させられた。今後の女性学・ジェンダー研究の発展に向けて、継承世代としての責任を新たに自覚する契機となり、参加者それぞれが自身の研究や実践を再考する機会となったことは、本シンポジウムの大きな成果といえるだろう。

.....
大会シンポジウムの感想③

2024 年大会シンポジウム

「女性学を継承する」に参加して

山根純佳

日本女性学会 1 日目のシンポジウム「女性学を継承する」に参加した。会場はほぼ満員の盛況であった。上野千鶴子報告「女性学を継承する一世代間継承へ向け」、佐藤文香報告「女性学とジェンダー研究のあい

だ」、加藤秀一氏、古川直子氏のコメント、それぞれから学ぶところは多かった。しかし女性学の継承をめぐる対話としては実りあるシンポとではなかったのではないだろうか。上野氏がとりあげた「I am not a feminist, but . . .」問題、女性学の制度化、ジェンダー関連学会の成立、バックラッシュ、学問の中立性の要求など、女性学からジェンダー研究への展開の中で得たもの、失ったものは何なのか、こうした論点については、ディスカッションでほとんど取り上げられなかった。

私は、「パイオニア世代に教育を受けた」第二世代（上野報告）に属するが、女性学の継承は厳しい状況にあると考えている。「ジェンダー」はどんな研究者も使う一つの変数なのであり、ジェンダー研究という独自の領域は必要ない、とする考え方に会うこともある。女性学・ジェンダー系の学会に入っていないが、「ジェンダー」や「女性労働」を専門分野とする研究者が増え、そうした研究分野で緻密な実証研究の成果が生み出されていることも確かである。こうした現状をもって、女性学は役割を終えた、とする考え方もあるだろう。

一方で、女性学は、「性差別的な社会を生きる私」というポジショナリティから出発して、差別や排除の経験を理論化し、男性中心的な近代社会の編成（政治、法、学問、公私区分）を問い直してきた。その意義は今一度確認される必要があるだろう。もちろん、女性学の担い手が女性であるべきといった狭義の「当事者性」にこだわる必然性はない。しかしこのポジショナリティを引き受けることで見えてくる課題や研究者の責任、またその責任から生み出されるつながりもある。その意味で、まだまだ女性学には残された役割がある、と考えている。

パネル報告・ワークショップ報告

.....
分科会 C ワークショップ

「経口中絶薬から考える日本の SRHR」をテーマとしたワークショップでは、Women on Waves（公海上での中絶）、Women on Web（中絶薬の郵送提供）、Aid Access（USA への中絶薬提供）と次々に、中絶が非法またはアクセスが難しい地域に安全な中絶を提供する組織を立ち上げてきたレベッカ・ゴンパーツさん、そのインタビュー映像（SOSHIREN 女のからだから制作）を観た後、3つのグループに分かれて、SRHR（セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス・ライツ）について語

り合った。

レベッカさんは、女には自分のからだをコントロールする力があり、中絶薬を使うことで医師によるからだへの支配から解放されると言う。そのうえで日本の女たちに市民的不服従を勧める。

グループ討論では、方向性までは出せなかったが、自分たちの力をもっと信頼できるようにしたい、墮胎罪が罪の意識を負わせている、留学先での避妊・中絶の情報・アクセスの違い、性教育を変えていく必要性、などが活発に語られた。

文責：長沖暁子

分科会 D パネル報告

「公共サービスの持続可能性を考える～ジェンダー視点で捉える公務労働」をテーマとしたパネル報告では、『自分ゴト』として考える公共サービス～研究と実践をつなぐために」(渋谷典子)、「非正規女性をがんばらせる構造と公務専門職の持続可能性」(廣森直子)、「公務職場における仕事の序列化とジェンダー～「専門職」として働く公務非正規女性の経験調査から」(瀬山紀子)の三人からの報告を行った。公務労働における非正規の問題をジェンダー視点で捉え、持続可能性・専門性・序列化といったキーワードが提示された。会場とのディスカッションでは、①専門性をどう定義づけるか、②女性が多い専門職とジェンダー課題の関係をどのように分析するか、③公務労働の特殊性を捉えつつ研究蓄積がある分野(たとえば、行政学)との接点を模索してはどうかといった質問と提案があり、今後の研究への示唆を得ることができた。

文責：渋谷典子

分科会 H パネル報告

分科会の H として、「フェミニズムと表現・出版・学問の自由」のパネルディスカッションを実施。報告者は、森田成也、キャロライン・ノーマ、中里見博。かつて表現・学問の自由に対する攻撃は、日本軍「慰安婦」や南京大虐殺、天皇などをめぐって主に右からなされていたが、現在では、トランス問題をめぐって左からなされている。この現状について、まず森田が、アビゲイル・シュライアーの『トランスジェンダーになりたい少女たち』をめぐって起こった事件について報告し、ノーマは欧米諸国ですでに深刻になっているフェミニストの言論に対する弾圧の実態について報告し、最後に中里見が、表現の自由論に関する従来の議論をまとめつつ、現在起きている言論抑圧はけっして擁護できないものであることを理論的に明らかにした。参加者は非常に多く、質疑応答も非常に積極的になされた。途中、「トランス差別だ」と叫んで退室した者がいたが、全体として報告に賛成する立場からも批判する立場からも意見が出され、民主主義的な討議の場を保障するものであった。

文責：森田成也

個人研究発表

分科会 A

馮可欣●能力となった美しさ —中国の高学歴女性の学校から職場への移行—

矢田陽子●スペインと日本の女性・母性表象比較：日本映画「母性(2022)」とペドロ・アルモドバル作品比較分析

趙男●女の表現からみる女性運動の「波」：『青鞥』から『女・エロス』、そして本日のジンへ

西田梨紗●おひとりさま女性のイメージの変遷—現代のおひとりさま女性が抱える問題とは

宮津多美子●「ベビーユートピア」の社会政治的アジェンダ：ギルマンの *Moving the Mountain* にみる社会主義フェミニズム

分科会 B

西川由紀●経済資本を獲得するためのひとり親の女性の労働に関わるハビトゥスに関する研究

池橋みどり●会計年度任用職員女性が感じる 2 種類の不安について —計量テキスト分析からわかること—

牧野雅子●「婦人警察官」の手記に見る婦人警察官制度の発足

渡邊麻友●ナミビアにおける女性牧師増加の背景と現状

永山理穂●「美」を売る労働はいかにジェンダー化されるのか—女性美容部員と男性美容部員の比較を通して

分科会 E

竹内愛●ネパールの若者の海外出稼ぎトレンドによるコミュニティ変容と女性自助組織の役割

甲斐田きよみ●女性の経済力向上と世帯内ジェンダー関係—カメルーンとナイジェリアを事例として—

佐藤齊華●移動は女性に何をもたらすのか：ヒマラヤからニューヨークまで、ある民族的コミュニティのケース

川口千尋●ジェンダー化された無国籍：現代ネパールにおける女性の市民権証取得プロセスに着目して

王嘉若●中国における家父長制理論の再考：フォーブスの家父長制理論にもとづく

分科会 F

五十嵐舞●アメリカ黒人女性のフェミニズムとパレスチナ

中林基子●介護保険制度開始後のケアマネジャー業務の制度的位置づけの変化と労働の変容

森恭子●ケアの倫理から検討する嫁の解放—奈良県奈良市旧都祁村の葬送・先祖祭祀を事例に

井上瞳●被害に遭わなければありえた世界とありえなかった世界の狭間で——日本の性暴力被害者支援をめぐる当事者のジレンマに着目して

三浦まり・大倉沙江・小谷幸・金美珍●女性団体に対する誹謗中傷を克服するために：女性団体包括的実態調査をもとに

分科会 G

佐伯英子●アイルランド共和国の中絶合法化運動における当事者のナラティブと中絶の脱スティグマ化

塚原久美●人権としてのリプロの権利

小塩若菜●月経時の水泳の授業への参加—大阪府の生徒と教師へのインタビューから—

孟令齊●中国人性的マイノリティの留学生における移住後の活動

于寧●クィアベイティングなのか、それともクィアコーディングなのか —二元論を越え 中国本土の主流映像作品におけるクィア表象を探る

お知らせ

日本女性学会 2024 年大会において開催された分科会について、発言や運営に問題があったとの指摘、批判がありました。これをうけ、幹事会では、幹事に外部委員を加えた調査ワーキンググループを設置し、指摘された事実の存否を確認し、具体的な問題について調査をいたしましたので、その結果を公開いたします。

日本女性学会は今回の指摘、批判を真摯に受け止め、「学会活動の自由と公正のための宣言」（2006 年 6 月 10 日、日本女性学会総会において採択）にもとづいて、大会を含めた学会運営の改善を検討してまいります。

調査報告書は、以下からご覧いただけます。

<https://joseigakkai-jp.org/>



2025 年 2 月 21 日 日本女性学会 23 期幹事会

次回大会お知らせ

【1】2025年度日本女性学会大会は、2025年6月7日（土）、8日（日）に立教大学池袋キャンパスで実施いたします。

会場：立教大学池袋キャンパス（対面）

大会日程（予定）：6月7日（土） ・14：00～17：30 大会シンポジウム

・18：00～ 懇親会

6月8日（日） ・9：30～15：30 分科会

・16：00～ 総会

【2】大会における個人研究発表・パネル報告・ワークショップを、下記の要領で募集いたします。

<個人研究発表・パネル報告・ワークショップ募集について>

- 締め切り：4月13日（日）24時
- 応募資格：申込時に入会の申し込みを完了していること
- 応募方法：カテゴリー（個人研究発表、パネル報告、ワークショップ）ごとに、下記のフォームに必要事項をご記入の上、ご応募ください。

個人発表 <https://forms.gle/e8tSdNaFXQDQXaNw9>

パネル報告 <https://forms.gle/p29QBe2RETBWnQnd8>

ワークショップ <https://forms.gle/vWZpigNK7dkhoyEu6>

URLで入力できない場合、事務局にご連絡ください。

日本女性学会 事務局 [jyoseigakkai-info（アットマーク）genj.jp](mailto:jyoseigakkai-info@genj.jp)

- ・個人研究発表：発表タイトル、発表者名（所属）、要旨（300字以上400字以下）
- ・パネル報告：パネルタイトル、コーディネーター名（所属）、各発表者名（所属）、各発表タイトル、各要旨（300字以上400字以下）、司会者名（所属）
- ・ワークショップ：テーマ、コーディネーター名（所属）、各発表者名（所属）、概要（300字以上400字以下）

- すべての個人研究発表、パネル報告、ワークショップは、「学会活動の自由と公正のための宣言」のもとで行われます。
- 個人研究発表は、ひとつの分科会で、複数の方に発表していただきます。発表の組み合わせ等は幹事会で決定します。
- パネル報告は、共通するテーマの3件以上の研究発表で構成してください。公平な時間配分と十分な質疑時間の確保にご留意ください。
- ワークショップは、参加者との共同作業でテーマを発展させていく取り組みで、研究発表とは性格の異なるものです。原則として複数の発表者が分科会全体（2時間程度）を担当していただきます。
- 発表者、コーディネーター、司会は会員に限ります。応募の際にご確認ください。非会員の方は応募時にご入会ください。
- 個人研究発表・パネル報告・ワークショップをされる方で、学生、院生、OD等、常勤職についていない方には、学会より旅費の補助を行います（総額10万円を人数と距離に応じて配分しますので、補助金額は未定です）。希望される方は、報告申込の際に、その旨記載ください。

日本女性学会 第45回年次総会議事録

【日 時】2024年6月8(土) 16:45 - 17:30

【会 場】武蔵大学

【出席者】31名

【議長と書記の選任】

司会者より、議長を杉浦郁子会員、書記を内藤和美会員とすることが提案され、賛成多数で承認された。

【議 事】

1. 議案 1 2023年度活動報告(案)

(1) 総括(第22期代表:北仲千里幹事)

大会の対面開催、学会誌刊行、第23期幹事選出選挙の実施等について説明があった。

(2) 会員の動向(庶務:内藤和美幹事)

2024年3月31日現在の会員数が360名であることと、2023年度の入・退会状況について報告があった。

(3) 2023年度大会および総会の開催(庶務:内藤和美幹事)

2023年6月17日(土)、18日(日)に、京都市男女共同参画センターで開催された2023年度大会の内容と参加者数、および第44回総会の議事と承認結果について報告があった。

(4) 研究会の開催(研究会:千田有紀幹事)

2023年度は、研究会開催助成の申請がなかったことが報告された。

(5) 少額研究活動支援(少額研究活動支援:堀江有里幹事)

・2022年度に支援を行った1件の結果報告を幹事会で確認したことが報告された。

・2023年度に3件の支援を行ったことが報告された。

(6) 学会誌の編集・刊行(編集委員:木村涼子幹事・伊藤淑子幹事)

学会誌第31号の編集・刊行について説明があった。

(7) 学会誌掲載論文・記事の電子化(学会誌電子化担当:牟田和恵幹事)

学会誌『女性学』30号掲載全論文をウェブ公開したことが報告された。

(8) 学会ニュースの発行(学会ニュース:三枝麻由美幹事・西倉実季幹事)

学会ニュース159～161号の発行について報告があった。

(9) メールニュースの発行(メールニュース:西倉実季幹事)

メールニュースを54通発信したことが報告された。

(10) ホームページ運営(ホームページ:千田有紀幹事・堀江有里幹事)

ホームページへの記事掲載、およびホームページの見やすさを改善するための改変を行ったことが報告された。

(11) 幹事会の開催(庶務:内藤和美幹事)

7回の幹事会をオンラインで開催したことが報告された。

議案1. について質問・意見はなく、表決の結果、承認された。

議案2. 2023年度決算報告(会計:伊藤静香幹事・渋谷典子幹事)

2023年度の収入および支出の状況および予算との異同が報告された

議案3. 会計監査報告(会計監査:釜野さおり会員・杉浦郁子会員)

適正に執行されたことを確認した旨、報告があった。

議案2. 議案3. について質問・意見はなく、表決の結果、承認された

議案4. 第23期幹事選出選挙の報告および第23期幹事候補者(案)(選挙管理委員:内藤和美幹事・牟田和恵幹事)

日本女性学会第23期幹事選出選挙の実施方法、投票期間、説明文書上の誤記と講じた修復措置、開票結果および上位得票者の応諾結果が報告された。これに基づき、第23期幹事候補者として8名が提案された。次いで、第23期選挙選出幹事候補者より、第23期委嘱幹事として7名が提案された。

議案4. について質問・意見はなく、表決の結果、承認された。

議案 5. 第 23 期会計監査の選出（第 22 期代表：北仲千里幹事）

第 23 期選挙選出幹事候補者より、第 23 期会計監査として 2 名が提案された。

議案 5. について質問・意見はなく、表決の結果、承認された。

議案 6. 2024 年度活動計画（案）（第 22 期代表：北仲千里幹事）

2024 年度の活動として、2025 年大会の開催、学会誌第 32 号の編集・発行、学会誌（紙媒体）の刊行のあり方およびウェブ公開のあり方の検討、学会ニュース・メールニュース・ウェブサイトによる会員への情報発信、リニューアルに向けた学会ニュースとウェブサイトの課題整理、研究会助成、少額研究活動支援、永年会員制度の活用促進を行うことが提案された。

議案 7. 2024 年度予算（会計：伊藤静香幹事・渋谷典子幹事）

2024 年度の収入および支出が提案された。

議案 6. および議案 7. について質問・意見はなく、表決の結果、承認された。

議案 8. 2024 年度少額研究活動支援対象者（案）（少額研究活動支援：堀江有里幹事）

2 件に対する支援が提案された。

議案 8. について質問・意見はなく、表決の結果、承認された。

その他

とくになし。

議長と書記の解任。

議案 2 2023 年度決算案 (2023.4.1 ~ 2024.3.31) 【資料 1】

<収入の部>

費目	収入額	当初予算額	備考
会費等	2,667,020	2,488,000	
会費	2,610,000	2,468,000	10,000 円× 135 名、 8,000 円× 41 名、 6,000 円× 123 名、 永年会員費 187,000 円、 7000 円 (2025 年分預かり)
入会金	24,000	20,000	1,000 円× 24 名
寄付	2,000		
学会誌購読料	31,020		2,820 円× 11 冊
学会誌売上	0	20,000	大会時の販売なし
学会大会	82,500	100,000	
大会参加費	82,500	100,000	会員 500 円× 74 名、 非会員常勤 1,000 円× 22 名、 非会員常勤以外 500 円× 47 名
懇親会参加費	0	0	懇親会実施せず
学術著作権料	110,782	100,000	社) 学術著作権協会より
その他雑収入	5	3	銀行口座利息
小計	2,860,307	2,708,003	
前年度繰越金	11,221,300	11,221,300	
総計	14,081,607	13,929,303	

<支出の部>

費目	支出額	当初予算額	備考
学会誌	1,058,370	1,060,000	
学会誌送料	59,170	60,000	
学会誌編集委員会	20,000	50,000	翻訳等謝金 20,000 円 (学会誌に掲載の英文サマリーのネイティブチェック)
学会誌製本印刷・校正手数料	900,000	900,000	『女性学 Vol.31』制作・発刊
電子化費用	79,200	50,000	
ニュース	157,012	162,000	
ニュース版下代	55,000	50,000	2023 年度発行 (158-160 号) 原稿分
ニュース送料	56,252	72,000	158 号のみ
ニュース印刷費	45,760	40,000	158 号のみ
幹事会活動費	36,255	100,000	
研究会助成	30,000	120,000	
少額研究助成	90,000	300,000	30,000 円× 3 名
大会総会費	305,300	270,000	
大会総会費	305,300	270,000	交通費補助 4 人 100,000 円、 パネリスト交通費 54,580 円、 パネリスト謝金@ 10,000 円× 3 人= 30,000 円 大会運営費 120,720 円 (2022 年度に会場費として 121,880 円を支払計上済み)
事務局費	544,467	610,000	
事務局委託費	521,805	550,000	
事務局経費	22,662	60,000	
HP 更新維持費	120,000	60,000	サイト管理費 (2023 年度、2024 年度として)
選挙管理委員会	54,409	300,000	事務局経費 23,373 円、 選挙管理委員会交通費 31,036 円 (2024 年度に選挙業務委託費として 174,438 円・選挙経費として 91,076 円を計上予定)
雑費	4,180	0	振込手数料
小計	2,399,993	2,982,000	
次年度繰越金	11,681,614	10,947,303	
総計	14,081,607	13,929,303	

次年度繰越金	11,681,614
実残高合計	11,681,614
うち ゆうちょ銀行残高	10,721,254
うち 三菱 UFJ 銀行残高	0
うち 三井住友銀行残高	702,154
うち 会計手持ち	258,206

保管機関名：

- ・ ゆうちょ銀行 振替口座 00890-6-31306
- ・ 三菱 UFJ 銀行 金山支店 普通 3539270
- ・ 三井住友銀行 東京中央支店 普通 0451169

議案 7 2024 年度予算案 (2024.4.1 ~ 2025.3.31) 【資料 3】

<収入の部>

費目	収入額	備考
会費等	2,588,000	
会費	2,568,000	10,000 円× 130 人、8,000 円× 40 人、6,000 円× 130 人／永年会員 168,000 円
入会金	20,000	20 人 (過去数年の実績に基づく)
学会誌売上	0	過去数年間の実績 (大会時の販売なし) に基づく
大会参加費	180,000	大会：会員 500 円× 80 人、非会員 1,000 円× 80 人／懇親会：2,000 円× 30 人
学術著作権料	100,000	過去数年間の実績に基づく
その他雑収入	5	銀行利息等
小計	2,868,005	
前年度繰越金	11,681,614	
総計	14,549,619	

<支出の部>

費目	支出額	備考
学会誌	1,070,000	
学会誌送料	60,000	2023 年度分実績に基づく
学会誌編集委員会	30,000	2023 年度の実績に基づく
学会誌製本印刷・校正手数料	900,000	『女性学 Vol.32』制作・発刊
電子化費用	80,000	J-Stage 搭載作業費等
ニュース	160,000	
ニュース版下代	55,000	2024 年度発行 (161-163 号) 原稿分
ニュース送料	60,000	161 号のみ
ニュース印刷費	45,000	161 号のみ
幹事会活動費	100,000	幹事会交通費及び郵送料等
研究会助成	120,000	1 件の上限を 60,000 円× 2 件
少額研究助成	300,000	30,000 円× 10 人
大会総会費	300,000	交通費補助、パネリスト交通費、パネリスト謝金、大会運営費、懇親会費用等
事務局費	630,000	
事務局委託費	600,000	事務サービス業務 (会員管理及び受付業務費用、新入会者原簿作成費用、事務所費用) 会員サービス業務 (学会誌発送手数料、ニュースレター発送手数料)
事務局経費	30,000	郵送代、封筒印刷代
HP 更新維持費	60,000	サイト管理 60,000 円 (2025 年 4 月～ 2026 年 3 月分を 2025 年 3 月に前払い)
選挙管理委員会	265,514	23 期選挙費用 (選挙業務委託費 174,438 円・選挙経費 91,076 円)
小計	3,005,514	
次年度繰越金	11,544,105	
総計	14,549,619	

幹事会議事要録

日本女性学会第 22 期第 13 回幹事会

日時 2024 年 5 月 18 日 (日) 15:00 ~ 18:00
(Zoom 会議)

出席者 伊藤静、伊藤淑、北仲、木村、三枝、渋谷、
千田、内藤、西倉、牟田
欠席 堀江

議事

議題 1 2024 年大会について

1. スケジュールと役割分担

大会のスケジュールに沿って、幹事の役割分担を確認した。

2. 大会収支予算

航空券と宿泊費のパックで旅行予約をした非会員登壇者への交通費の支払い方、および発表者旅費補助の追加希望への対応について協議・決定し、それらを反映して、日本女性学会大会・2024 年度大会／収支予算書を決定した。

議題 2 第 45 回総会議案について

議案書案

原案について 3 点を修正し、第 45 回総会議案書案を決定した。

2023 年度決算案

会計監査済の、2023 年度決算案 (2023.4.1 ~ 2024.3.31) を確認した。

2024 年度予算案

5 月 20 付【修正】2024 年度予算案 (2024.4.1 ~ 2025.3.31) の通りとすることとした。

議題 3 三井住友銀行口座について

各代表幹事を決定した幹事会の議事録と本人確認書類を付して、代表名、所在地、印の変更手続きを行う。

議題 4 各担当より

1. 学会誌

刊行元出版社カナリア・コミュニケーションズの担当者の退職に伴い、今後の刊行のあり方の選択肢を整理した。専らインターネットで販売している他学会情報収集を含め、引き続き検討する。

2. 少額研究活動支援

例年支援受給後一年以内 (2024 年 6 月末) に報告書

の提出を求めているが、送金の半年近く遅延に鑑み、今回に限り、9 月末まで延期することとした。

3. 庶務

(1) 入会申込の承認審査

・メール審査を行った 3 名の入会承認を確認した。
・新たに 4 名の入会と、1 名の再入会を承認した。

(2) 会員状況の報告

5 月 14 日現在、会員数は 360 名であることその他会員の動向が報告された。

(3) 外部機関対応報告

4 月 8 日 ~ 5 月 17 日の間に、通信・資料等 3 点、日本学術会議ニューズメール No.877 ~ 880 他 E メール 8 通を受領したことが報告された。

以上

日本女性学会第 22 期・第 23 期合同幹事会 要録

日時 2024 年 6 月 9 日 (日) 15:45 ~ 17:45

会場 武蔵大学 1 号館 1401 室

出席 22 期：伊藤 (静)、伊藤 (淑)、北仲、三枝、
渋谷、千田、内藤、西倉、堀江、牟田
23 期：荒木、宮津

欠席 飯田、井谷、木村、佐藤、杉浦、須長、茶園、
細谷

議事

議題 1 2024 年大会について

1. 参加状況

参加者数等は次の通りであったことが報告された。

(1) 大会参加者数および参加費収入

大会	参加者	会員 98 名	非会員 169 名
			計 257 名

	参加費	208,000 円
--	-----	-----------

総会	出席者	31 名
----	-----	------

懇親会	参加者	39 名
-----	-----	------

	会費	78,000 円
--	----	----------

(2) 分科会参加者数

分科会

	A	B	C*	D**	E	F	G	H**
参加者数	26	26	19	19	20	32	20	85

*ワークショップ **パネル報告 他は個人研究発表

2. 分科会の運営について

各分科会担当幹事から、分科会の運営状況と今後に向けての課題等が報告され、意見を換わした。

3. 経費の支出について

学生アルバイト 3.5 人分として 80,000 円を支払うことを承認した。

議題 2 学会誌の刊行体制について

- ・第 23 期の編集委員会は、伊藤（淑）、荒木、茶園、宮津の 4 幹事と木村涼子会員で構成する。
- ・会社側の担当体制の変更があったが、第 32 号も、引き続き、144 頁・90 万円の条件でカナリア・コミュニケーションズに出版を委託することとする。

議題 3 EBSCO からの提案について

『女性学』掲載記事の Web 上の全文公開は従来通り発行後 1 年（12 ヶ月）だが、EBSCO で、書誌データがそれ以前に公開されるよう手続きを取ることが承認された。

議題 4 入会申込の承認について

4 名の入会申込のうち 2 名の入会を承認した。

報告

(1) 会員状況（2024 年 6 月 5 日現在）

会員数が 369 名であることその他、会員の動向が報告された。

(2) 外部機関対応状況

5 月 17 日～6 月 8 日の間に、日本学術会議ニュースメール No.881、882 を受領したことが報告された。

以上

第 22 期・第 23 期合同幹事会

日 時：2024 年 7 月 8 日（月）19：00～22：50

出席者：22 期：伊藤静香、伊藤淑子、北仲、木村、
渋谷、三枝、千田、内藤、西倉、堀江、
牟田

23 期：荒木、飯田、井谷、佐藤、杉浦、茶園、
細谷、宮津

欠席者：23 期：須長

議題

1. 2025 年大会開催について

2025 年度を立教大学で開催することを決定した。

2. 新規入会申込者について

2 名の入会を承認し、他 2 名を継続審議とすることとした。

3. 大会の分科会の問題について

対応について協議を行った。

第 22 期・第 23 期合同幹事会

日 時：2024 年 7 月 14 日（日）15：00～17：20

出席者：22 期：伊藤静香、伊藤淑子、北仲、木村、
渋谷、三枝、千田、内藤、西倉、堀江、
牟田

23 期：荒木、飯田、井谷、佐藤、杉浦、須長、
茶園、細谷、宮津

1. 新規入会申込者について

2 名について継続審議とした。

2. 大会の分科会の問題について

対応について協議を行った。

日本女性学会第 23 期第 1 回幹事会要録

日 時：2025 年 2 月 11 日（火）19：00～21：53
（Zoom 会議）

出席者：荒木菜穂、飯田祐子、井谷聡子、伊藤静香、
伊藤淑子、北仲千里、三枝麻由美、佐藤文香、
渋谷典子、杉浦郁子、須長史生、千田有紀、
茶園敏美、細谷実、宮津多美子（15 名）

欠席：（0 名）

<審議事項>

1. 分科会 H に関する調査 WG の報告書について

2024 年大会分科会 H について、調査 WG 委員長から報告があった。議論の結果、報告書はプライバシー保護の対策を行なった上で、学会 HP 上で公開、会員に対しては ML およびニューズレターにて報告することが承認された。

2. ニューズレターについて

調査 WG の報告と報告書の公開方針が決定されたことを受けて、2024 年 9 月頃発行予定であったニューズレターをできるだけ近日中に発行し、例年 3 月頃発行

するニューズレターはできるだけ時期をずらさず発行する。

3. 入会申込の承認

6月の幹事会移行ペンディングになっていた2名と、最近申し込みのあった2名の入会を承認した。今後は、「学会活動の公平公正のための宣言」をHP上の見やすいところに掲載し、入会承認のメールにも「宣言文」を添付する。

4. 報告：WG 外部委員に対する謝金の支払いについて

調査WGの外部委員への謝金は、「幹事会活動費」から2時間につき5,000円を支払う。

5. 2025年度大会について

開催日：2025年6月7日（土）、8日（日）

会場：立教大学

開催形式：対面

シンポジウム：テーマは3月の幹事会で決定する

<各担当からの報告事項>

○研究会助成

研究会助成については、申し込みがなかった。

○学会誌編集委員会

第32号には、投稿論文2本、研究ノート1本、新刊

紹介3本、シンポジウムの報告特集記事が掲載される。

○学会ニュース

調査WGの活動終了を受け、早急に学会ニューズレターを発行し、通常3月に発行される号に関しては、3月の幹事会後に発行する。

○ウェブサイト

学会の宣言文を学会HPのできるだけ見やすい場所に移動する。

○会計

学術著作権協会から著作権使用料（62,189円）の入金があった。

○少額研究支援

「少額研究支援」の永年会員の応募資格について、実施要領案を担当幹事が作成する。

○庶務

- ・会員数（2025年1月31日現在）371名
- ・学術著作権協会から、学会が関係した著作物についてはオンラインで公開されたものに対しても著作権料が支払われるよう制度が整備されたこと、AI生成コンテンツ（授業使用など）も支払い対象となるよう規定や約款が変更されたと連絡があった。
- ・学会への献本について。献本があった著作に対して必ずしも書評が書かれるわけではないこと、書評の対象となるために献本する必要があるわけではないことが確認された。

少額研究活動支援

2024年度の少額研究活動支援は、6月の総会で、次の2つの研究に対して行なわれることが決まりました。

児玉谷レミ：自衛隊広報のジェンダー分析、

楊雅韻：「医薬品」から「化粧品」へ — 「化粧品」業界とジェンダー

会員の著書紹介（出版年が古い順）

- *矢内琴江著『性差別を克服する実践のコミュニティ』明石書店、2024年
- *久木田絹代著『中学生が綴る労働とDV—語る・聴く・交流が生み出すエンパワーメント』労働教育センター、2024年
- *岩淵宏子著『女性表象とフェミニズム—日本近現代女性文学を読む』翰林書房、2024年
- *小山美沙子『詩集 原始星』一粒書房、2024年
- *江原由美子編著『ジェンダーと平等』ミネルヴァ書房、2024年
- *岩淵宏子他著『現代女性文学論』翰林書房、2024年
- *有元伸子他編『文学をひらく鍵—ジェンダーから読む日本近代文学—』鼎書房、2024年
- *宮津多美子著『異文化コミュニケーション入門—ことばと文化の共感力』勁草書房、2024年

会員の著書紹介募集

以下のルールで会員のみなさまの著作を紹介します。掲載ご希望の方は、事務局までご連絡ください。

- ・会員が執筆・編集している単行本（分担執筆含む、雑誌をのぞく）
- ・1年以内の発行物
- ・ご本人の申し出があったもの
- ・寄贈は条件としない
- ・寄贈いただいたもので会員の著作と判明したもの

会費納入のお願い

- 2024年度までの会費が未納の方は、どうぞお早めにお支払いください。会費納入のお願いと払込用紙はすでに送付しております。払込用紙をなくされた方は、郵便局備え付けの払込用紙をご利用のうえ、下記の納入先までお振込みください。

ゆうちょ銀行 振替口座
口座記号番号 00890 - 6 - 31306
加入者名 日本女性学会

- ネットバンキングでも納入できます。
ゆうちょ銀行 支店名：089（ゼロハチキユウ） 預金種目：当座 口座番号：0031306
- 日本女性学会の会費は年収スライド制（自己申告・税込み・該当年度予定収入）をとっております。
 - ・400万円未満（無職・学生含む）：6,000円
 - ・400～600万円未満：8,000円
 - ・600万円以上：10,000円
- 3年以上会費を滞納されている方は退会とみなされます（日本女性学会幹事改選選挙実施規定第4条（3））。複数年滞納されている方は、過不足なくお支払いいただくためにもご自身の納入状況を事務局にご確認のうえ、どうか早急にお支払いください。
- 学会の運営は会員のみなさんの会費によって成り立っております。重ねてのご協力をお願いいたします。
- 永年会員制度をご活用ください
2021年度から永年会員制度が開始されました。前年度までの会費を納めている65歳以上の会員は、前年度会費額の3ヵ年分の納入によって会費完納とし、永年会員とすることができます。振り込み時に「永年会費」とお書きください。
65歳以上の会員の皆さま、どうぞご活用ください。